

2018年7月17日

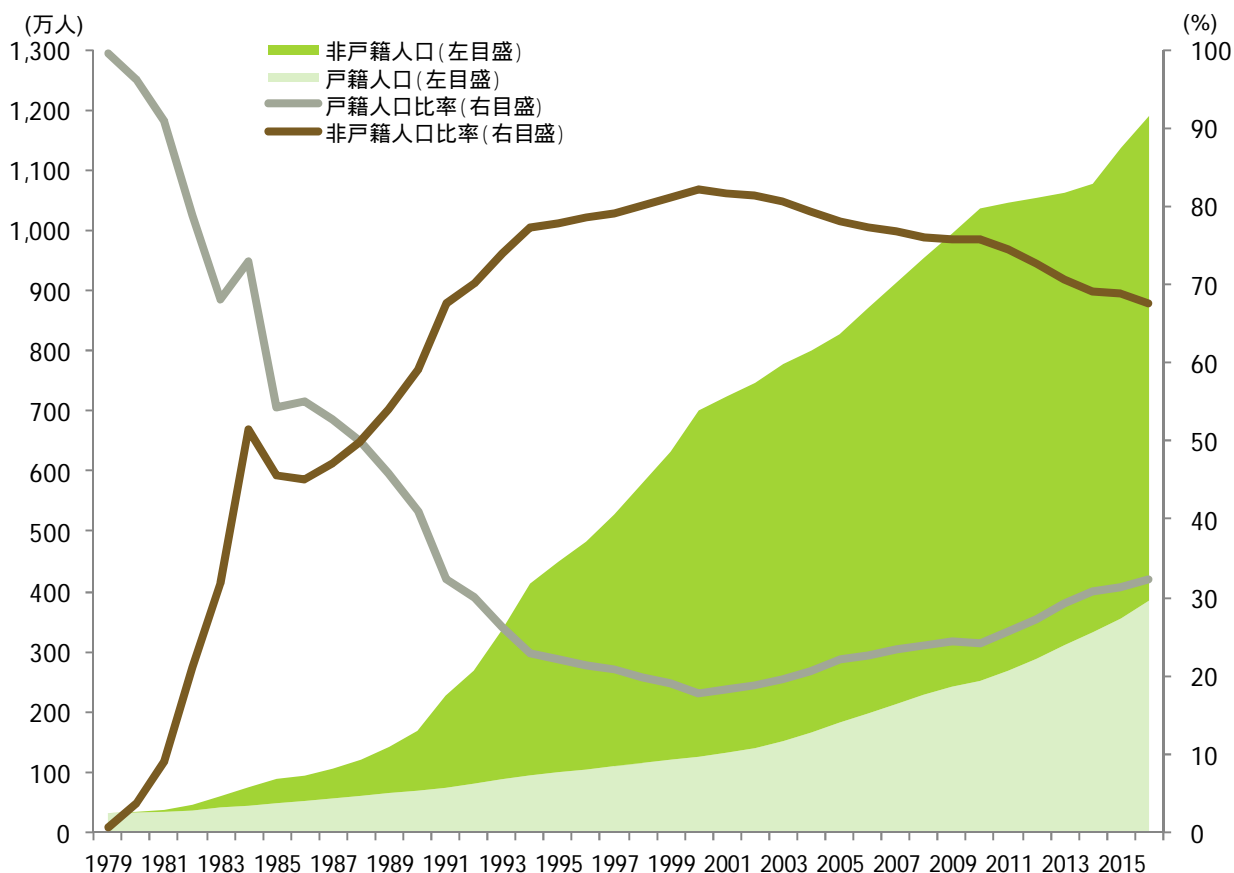
## 中国改革开放 40 周年・深圳の歩みと今 (2) ～人口からみる深圳市の変遷～

2018 年は中国が改革开放政策に転換してから 40 周年に当たります。経済特区という位置付けの下、改革の「実験場」として、対外開放の「窓口」として改革开放政策を主導してきた深圳市は、急速な発展を遂げ、かつての小さな漁村から「世界の工場」へ、そして昨今は「イノベーション都市」に変貌しつつあります。本レポートでは、中国の改革开放政策の始まり、改革开放政策以降の深圳の歩みを概観したうえで、その歩みの中から「イノベーション都市・深圳」が形成された背景を考察します。2 回目の本稿では、深圳市の変遷を人口の面からみてみます。

### 流入人口増加で非戸籍人口、労働者人口の比率上昇

深圳市の発展を支えてきた大きな要素の一つは外部からの流入人口です。深圳市統計年鑑によると、深圳市が誕生した 1979 年、当時の常住人口は 31 万人でした。しかし、経済特区に指定され外資導入による経済成長が促進

図表 1: 深圳市の常住人口(戸籍人口、非戸籍人口)の推移



(出所) 『深圳統計年鑑』を基に作成

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は法律、規制、財務、投資、税務、会計上の助言を行うものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成したものです。情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客様ご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的、機械的、またはその他の手段を問わず、書面での事前同意なしに開示、複製または転送等することを禁じております。

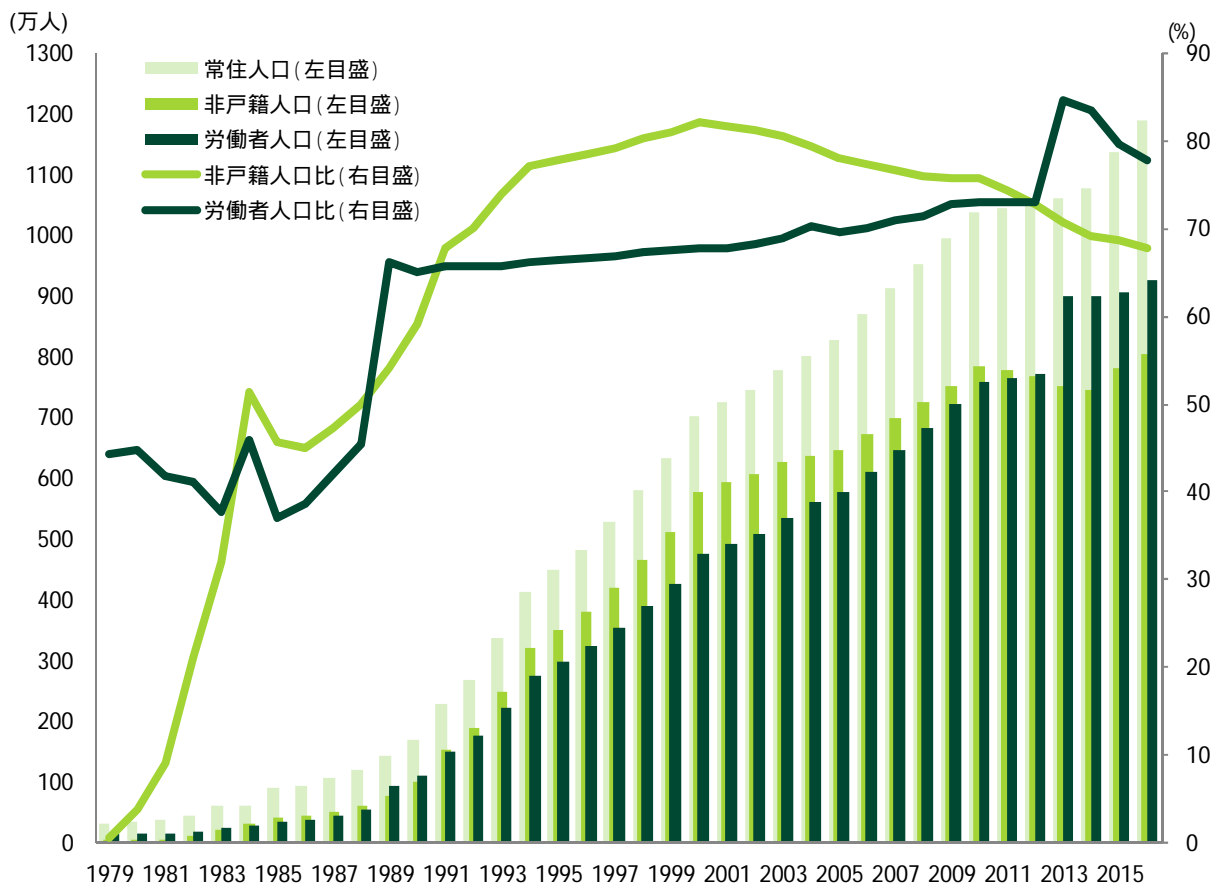
される中、香港をはじめ海外の製造業進出が加速。それに伴う労働需要の拡大に対応すべく流入人口が増加し、2016 年末時点の常住人口は 1,190 万人に達しました。

常住人口は、深圳市戸籍を保有する「戸籍人口」と戸籍を保有しない「非戸籍人口」に分けられます。戸籍人口と非戸籍人口の比率をみると、1979 年当時は戸籍人口比率が 99.5%を占めていましたが、流入人口の増加に伴い、非戸籍人口比率が急速に上昇。中国が世界貿易機関(WTO)に加盟した 2000 年には 82%に達しました。

流入人口の増加で、労働者人口の比率も上昇。1979 年当時、労働人口比率は 44%程度でしたが、1980 年代後半には約 65%にまで上昇しました。

非戸籍人口と労働者人口の比率(図表 2)を比べてみると、1990 年代から 2000 年代にかけては非戸籍人口比率が労働者人口比率を上回り、戸籍を保有していなかった労働者が多かったことを示唆しているといえます。しかし、近年(2012 年以降)は労働者人口比率が非戸籍人口比率を上回っています。これは、相対的に戸籍を取得しやすいホワイトカラーの労働者が増えていること、戸籍制度改革により、他都市に先行して戸籍政策を緩和していることなどが要因と考えられます。

図表 2: 非戸籍人口と労働者人口の推移



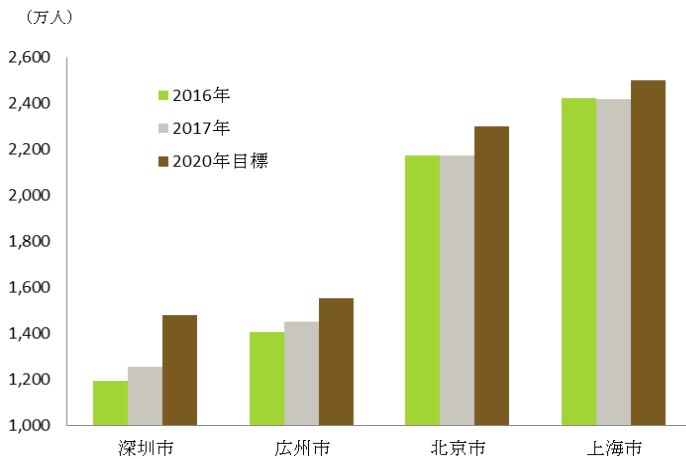
(出所) 『深圳統計年鑑』を基に作成

## 沿海4大都市別の人口比較

沿海4大都市(北京市、上海市、広州市、深圳市)の足許の常住人口をみると、北京市と上海市は2,000万人を突破。人口過多や交通渋滞などが深刻化し、2017年はともに純減に転じています。一方、深圳市の2017年末時点の常住人口は1,252万人と、前年末の1,190万人から5.2%増加。増加率は、広州市(3.2%)を上回り、4都市の中で最大を記録しています。2020年の人口目標に対する増加余地でも、深圳市は最大です。

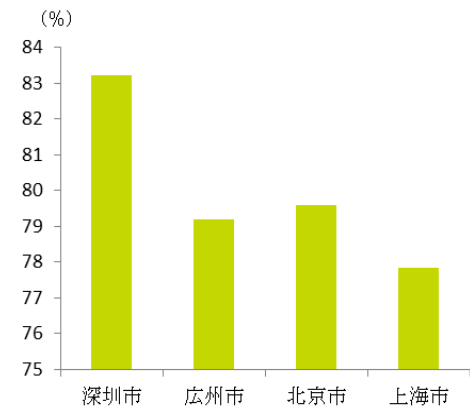
流入人口が多い深圳市は全国で最も若い都市とされ、2016年末時点の常住人口平均年齢は32.5歳。15~64歳の人口比率も4都市で最も高い水準にあります(図表4)。現在のイノベーション都市としての深圳市は、こうした若い流入人口が支えている側面が大きいといえます。

図表3:4 大都市の人口比較



(出所)各地方政府の公開情報に基づき作成

図表4:4 大都市の15-64歳の人口比率



(出所)各地方政府の公開情報に基づき作成

(執筆:株式会社三井住友銀行 コーポレート・アドバイザー本部 香港グループ)

本誌内容に関するご照会は、お取引店までご照会ください。